

# 様々な民族、文化がつくる アメリカ合衆国

埼玉県比企郡川島町立西中学校 寺井貴弘

## 1 はじめに

11月4日に行われたアメリカ合衆国大統領選挙で、バラク・オバマ氏が大勝した。世界の様々な地域から移民を受け入れてきたアメリカに、初の黒人大統領が誕生することになる。

経済、軍事、文化の面で世界に大きな影響を与えるアメリカ合衆国について、国を構成する多様な人種、民族から捉えていきたい。

## 2 移民とアメリカ合衆国の社会

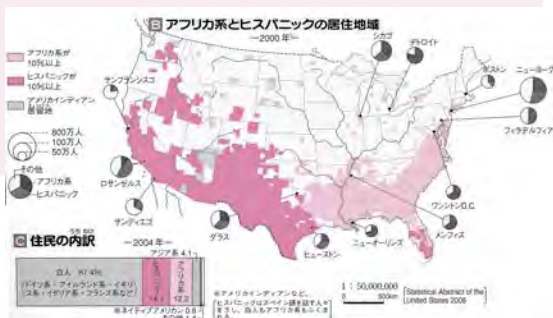
「人種のサラダボウル」と呼ばれる、多民族・多文化の社会はアメリカ建国以来の移民の受け入れにより築かれてきた。それは、人種、民族間の差別や格差の問題を生みながらも、それを克服していこうとする歴史でもあった。

地図帳p.50の㊦「アフリカ系とヒスパニックの居住地域」とp.53～54を比較しながら

- ①それぞれの人々はどこの地域に多いのか。
- ②その理由として何が考えられるか。

について確認、考察をさせる。このとき、ヒスパニックが多い南西部は、メキシコと国境を接すること、工場や農場で働く彼らの安価な労働力がこの地域の経済を支えていることにもふれる。アフリカ系が多い南東部は綿花栽培の盛んな地域（地図帳p.55の㊦）にかつて奴隷として連れてこられた人々が多かった歴史的背景についても押さえる。

また、言葉も文化も異なる人々が世界中から集まってくるアメリカでは、それぞれの国の文化が尊重されている。このため、各地にチャイナタウンなどが形成され、住み分けによりその民族独特の伝統や文化を大切にしている。ヒスパニックの多いロサンゼルスでは、



「中学校社会科地図 初訂版」p.50

スペイン語への対応も進んでいる。

## 3 住民の内訳の変化

生徒の意識には、アメリカの大部分が白人で黒人は少数、他の民族はさらに少ないといった認識がいまだに強いと感じられる。地図帳p.50の㊦「住民の内訳」では、白人は67.4%を占めているが、アフリカ系よりヒスパニックの割合が多いことがわかる。さらに2008年では白人は66%と減少傾向にあり、ヒスパニックやアフリカ、アジア系が増加している（米国勢調査局推計）。今後この傾向が進むものとされ、アメリカの社会や意識が変わっていくことが考えられる。

## 4 移民と市民権

「国家の定める法律に従えば、誰もがアメリカ市民になれる」この原則に基づき、アメリカは様々な国の人を受け入れてきた。この国での労働や生活を保障するものとして、

市民権：選挙権あり。職業選択の範囲広い。  
永住権（グリーンカード）：選挙権なし。  
の取得がある。

## 5 おわりに

ファストフードや映画、音楽、テーマパークなど世界に受け入れられ広がったアメリカの文化や生活スタイルは、日本人の生活にも大きな影響を与えている。民族の伝統文化を尊重する一方、便利さと合理性、楽しさを求め、新しいものを作り出そうとする多民族国家の持つ力と柔軟性を生徒に実感させたい。